

平成 24 年 10 月 17 日

福島大学あぶくま学生支援基金 設立のお知らせ

福島大学あぶくま学生支援基金 特別大使就任へのお願い

2012 年 10 月 17 日

福島大学行政政策学類

このたび、福島大学行政政策学類では、「福島大学あぶくま学生支援基金」を設立しました。本基金は、前身の行政社会学部及び行政政策学類の卒業生からなる同窓会「阿武隈会」からの出資金 1,000 万円をもとに、東日本大震災後の福島大学生による諸活動、たとえば、ボランティア活動をはじめとした各種社会活動や、自主的な学びを財政的に支援することを目的としています。

東日本大震災とそれに引き続いて起こった東京電力福島第一原発事故は、福島大学生が学び、生きる前提を大きく変えることとなりました。けっして低くはない放射線に曝される生活環境の中で暮らし学び続けるべきかどうかを自らに問いながら、福島大学生はボランティアをはじめとした様々な活動を続けてきました。学生による活動の多様さ、ユニークさ、反響の大きさ、そしてその意義には目をみはるものがあります。

こうした活動を継続するうえでネックとなってきたのが資金の問題です。活動がユニークであればあるほど、また緊急を要するものであればあるほど、学生たちはその活動費用を自ら工面しなければなりません。また、大学などの公的な資金では、「食材費」や「交通費」といった費目に支出できないという制限もあり、資金調達が学生たちの活動の大きな制約となっています。本基金は、こうした制約を少しでも緩和し、学生がその学びや活動を可能なかぎり自由に企画し、また迅速に実行できるように、

- ① 支出可能な費用項目をできるだけ広く認める
- ② 行政政策学類生だけではなく、他学類や他大学の学生と協同で実施するプロジェクトも対象とする
- ③ 年 1 回の長期型助成のほかに、年 4 回（3 か月に 1 度）の短期型助成を設ける
- ④ 1 プロジェクト最大 50 万円（年間）、20 万円（3 か月）を申請可能にする

といった方針で弾力的に運営することとしています。

学生の活動成果については、年度ごとの報告書としてまとめるだけでなく、その都度学類HPやブログを通じて、ひろく紹介していきます。

私たちは、被災地にある福島大学で、今ここでしかできないこと、今ここでやるべきこと、今ここでしか学べないことに、自由な発想と抜群の行動力で取り組んでいる学生の活動を力強く支援することが、私たちの「今やるべきこと」だと考えています。そこで、基金の設立と合わせ、この趣旨に賛同していただける学内外の皆様からの寄附金を募集することといたしました。

ご寄附をいただいた方には、「福島大学あぶくま学生支援基金 特別大使」にご就任いただき、その証として行政政策学類のロゴ（2010年度学生製作）入りの名刺を贈呈させていただきます。特別大使の皆様には、あぶくま学生支援基金の趣旨とその意義を広く広報していただければ幸いです。

私たちの希望であり、また将来を担う若い世代の福島大学生の学びや活動を通じて、福島と日本の復興を支援するという「福島大学あぶくま学生支援基金」に、ご理解と力強いご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

【お問い合わせ】

行政政策学類准教授 大黒太郎

TEL：024-548-8026

e-mail: a027@ipc.fukushima-u.ac.jp